

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

# さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク



## 令和元年5月11日(土)12日(日) 相模原市民若葉まつりに 出展しました。

平成28年2月にさがみはら生物多様性ネットワークが発足して3年。今までシンポジウムや会報紙の発行を通じて、生物多様性を守り、つなげていく取組を進めてきましたが、まだまだ「生物多様性」について知らない方や、どうしていいのかわからないという方も多いのではないでしょうか？そこで、今回、相模原市民若葉まつりに出展し、生物多様性についてPRしてきました。

他の品種との甘みの違いなど、多くの方に興味を持っていただきました。また、子どもたちから「給食で食べたことがある!」「学校で育てているよ!」とうれしい声をたくさん聞くことができました。



津久井在来大豆を使った  
商品の試食、販売コーナー

## 「津久井在来大豆」について

(団体会員：豊国屋 岡本政廣 相模原市南区新戸3024)

「津久井在来大豆」は、相模湖の千木良(ちぎら)という町が発祥と言われています。「津久井在来大豆」の特徴としては、他の大豆品種と比較し、明らかに糖度が高く、粒が大きく、タンパク質と脂肪分が少ないことが挙げられます

豊国屋では、2007年に大豆の栽培を始め、早いもので10年以上が経ちました。その間、相模原のみならず、

いのちや私たちの暮らしとのつながりのことを考えるきっかけにしてもらえたらと作られたCOP10のロゴに使われている、生きものの折り紙にチャレンジしてもらいました。かなり難しい折り紙でしたが、完成した時の嬉しそうな笑顔は素晴らしかったです。



COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の  
ロゴ折り紙の作成コーナー

今回の出展では、生物多様性を守るMY行動宣言(「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」)を多くの市民の方に体験していただけたのではないかと思います。これからもより多くの方に生物多様性を伝えていくために、啓発活動などに取り組んでいきたいと思えます。

近隣の座間・厚木・海老名・秦野・藤沢等でも栽培は盛んになり、味噌や納豆・豆腐などが市場にも出回るようになりました。

私は、いつもこの「津久井在来大豆」で商品開発をする度に、香りが良く甘いきな粉、まるで栗のような蒸かし豆など…本当に何に加工してもおいしい大豆だなあ、とつくづく思うのです。豊国屋の商品を自慢するものではありません。「津久井在来大豆」そのものの持ち味がそうさせるのです。この大豆、只者ではないのです。



# グリーンインフラとは自然を「いなす」知恵

国連生物多様性の10年市民ネットワーク代表 坂田昌子(個人会員)

北海道から沖縄まで緯度にして25度以上に細長く伸びる日本列島は、多様な気候、多様な自然環境に恵まれています。暖流、寒流の両方の影響を常に受け、世界にある活火山の約一割を持つ火山列島であり、北西季節風は日本海を渡り本州の山脈にぶつかって世界でも有数の積雪をもたらします。

自然が多様であるということは、自然災害も多様であるということです。日本では古来より、地域ごとに多様な土地利用、多様な土木技術がありました。海と陸のはざま、川と岸のはざま、山と里のはざま、日本列島に暮らす人々は、生態系の力を利用してつつ脅威を防御する、まるで合気道のように自然を

「いなす」知恵が育まれ、土、石、木を活用してきました。

愛媛県南宇和郡の外泊(そとどまり)という集落は、家が揺れるほどの強烈な西風にさらされる地域です。人々が移住してきた幕末に造られた石垣は、いまでも現役で活躍しています。一時期、「いまだき石垣でもないだろう」と公民館周辺をコンクリートに変えたことがあるそうですが、潮を含んだ西風にまたたくまに劣化してしまい、結局石垣に戻したそうです。石垣は防災の役目だけではなく、美しい石垣集落として観光資源にもなっています。



【写真：愛媛県南宇和郡外泊の集落】

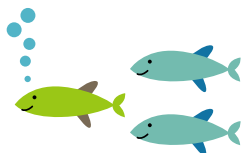
近代以降、科学技術革新が進む中でダム、道路、堤防や防潮堤、電力、上下水道等々、ハード面を中心にした国土管理はわたしたちに多くの利便性をもたらしました。しかし東日本大震災、年々巨大化する台風、森林劣化による土砂崩れなど災害のたびに、自然の脅威のすさまじさにおののき、人の作った

ものの脆弱性を思い知らされます。自然に打ち勝つのではなく、生態系を活用したインフラ、自然を「いなす」インフラとしてグリーンインフラは、自然が開発かという不毛な二元論を超える可能性を秘めています。



## 会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。



年会費…1口1,000円

個人・団体会員 / 1口以上  
事業者会員 / 2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局  
(相模原市水みどり環境課内)

住所：相模原市中央区中央2-11-15

電話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp